

発行所

福島県会津若松市
徒之町1の37

発行人 吉田一栄



母校々会の麦遷

校歌

嶺は秀づる

磐梯山

水は湛ふる

猪苗代

これぞ乾坤

秀麗の

精気鐘り

成る処



創立から昭和14年までの母校



昭和14年から昭和40年までの母校

ご挨拶

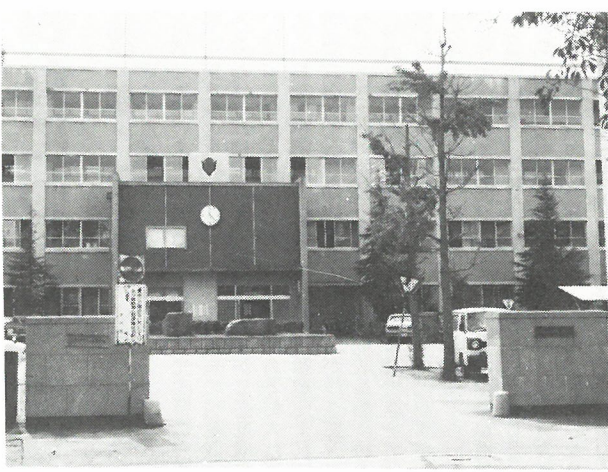
会津工業高等学校長

小森五良



窓会発展のため、格別のご
努力をいただきました。
まことに感謝に堪えま
す。心よりお礼を申し上げ
る次第であります。

本年度の夏は異常低温で
したが、それぞれの職場で
お元気で活躍のこととご
推薦申し上げます。また、
このたびの会工同窓会報・
昭和五十五年度号が発刊さ
れますこと、まことに同窓
会に堪えません。また、会
工同窓会連絡協議会の会長
であられた佐藤勝次さんが
ご老体のため辞任され、そ
の後任として現会津会工
長の吉田一栄さんが会長に
なされました。吉田会長の
今後の活躍を心より願
い申し上げます。これは化学
工学科をはじめ関係各科の
同窓会に対するご功績は、
私から申し述べるまでもな
く、長い年月に亘る東京会工
会の育成発展に対し、私財
を投じてのご努力は、申すに
及ばず全国同窓会に対する
ご貢献、特に連絡協議会長
となられてからは、本校同
士に



現 校 舎

次に、生徒の進路の面
で、今年の求人企業は例
年になく非常に多く喜ん
でおります。また生徒会の活
動も活発で、今年も全国高
校体育大会には新体操・体
操・バドミントン・弓道が
出場し、新体操は団体・個
人共全国第五位に入賞す
るなど大活躍を致しており
ます。

次に、ご報告して感謝申
し上げなければならぬこ
とがあります。それは、本
校染織科を昭和十六年十二
月卒の室井要理学博士が本
年四月に高価な「MCIデ
ィジタル微量水分測定装置」
を寄贈されたことでありま
す。室井博士は現在三菱化
成工業(株)総合研究所技術
研究所に主任研究員として
勤務しておられます。この
測定装置を寄贈するに当
ては、前会工同窓会連絡協
議会長佐藤勝次殿、東京会
工会長井上真市殿をはじめ
東京・会津在住の同期生の
方々の多大のご寄附により
実現したもので、室井博士
はもとより、ご協力いただき
ました卒業生の方々の母校
愛に対し衷心より感謝申し
上げたいと思います。お蔭
様で、現在繊維工業科の生
徒はもとより各科の生徒の
学習活動に使用させていた
だいております。

以上最近の母校の状況を
述べましたが、どうか本年
秋行われる会工祭には、是
非ご来校いただきますよう、
そして整備された校舎や施
設、設備などご覧いただき
たいと存じます。また、会
工祭を通して、今後の母校
の在るべき姿を論じていた
だければ、このうえない幸
と存じます。

最後に、同窓生各位のご
多幸とご健康をお祈り致し
併せて会工同窓会の益々の
発展を祈念しましてご挨拶
と致します。



ご挨拶

会工同窓会会長
会津会工会会長

吉田一栄



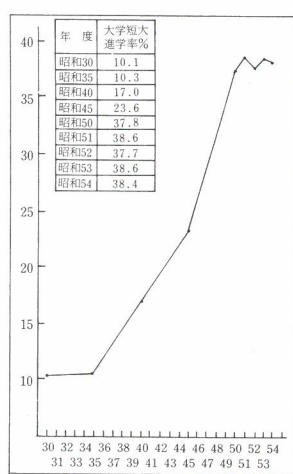
本年は例年になく低温の
夏でしるぎ易かった反面、
農作物の育成に対する影響
は大で盆地周囲の山ぞいで
は稲作などに被害がでいて
る様子です。会津会工会が
発足してから三年の歳月が
過ぎ去ろうとしており、今
年は東山温泉愛友ホテルに
て全国から代表の方々を招

いて全国総会を開催できる
運びとなったことは同慶
の至りでございます。昨年
会津会工会総会の席上、昭
和四十年以来、十数年の永
きにわたって会津支部の会
工会長として偉大な功績を
残された大竹蔵先生の辞任
に伴って微力な小生が後任
として選出されました。こ
その責任の重大さを考えて
おりましたところ、更に本
年に入り同窓会会長であら
れる佐藤勝次先生よりその
後任となるように勧められ
ましたが私ごとき若輩では
と再三にわたり辞退しまし
た。しかし全国理事会の決定

により強く勧奨もございま
したので受諾した次第です。
前会長佐藤先生の同窓会
に対するご功績は筆舌に尽
し得ないものであることは
皆様もよくご存知の事であ
り、余人には追従すること
は到底できません。私もこ
の先輩の後を継ぎ、同窓
会を発展に導くためには諸
兄の絶大なご指導、ご支
援がなければ達せられない
ことは明白であります。
この度、会津で全国各地
の同窓生諸兄に会発展の
ためのご意見などを頂戴で
きれば若輩の私にとつ
て力強く感ずる次第です。

また同窓会会報も装いを
新たにし、各地区会工会
の皆様のご協力を得て発行
できますことを深く感謝申
し上げます。
母校も創立以来一万五千
名におよぶ卒業生を輩出し、
東北地方では規模、内容共
に最も大きな工業高校とな
っております。この学舎で
諸兄の後輩が工業界に雄飛
すべく勉学に、スポーツに
いそしんでおり、特に体育
関係では各種大会で大活躍
をしていること聞くにおよ
んで心強く思っている次第
でございます。

十周年を迎えることになり
ますが、同窓生諸兄のご支
援とご協力を得まして記念
行事など滞りなく遂行でき
るようよろしくお願い致し
ます。
佐藤勝次前会長の永年の
輝かしいご功績の後を継ぎ
私がこころが果たして皆様の
ご期待にそい得るか疑問
でございますが、私ども役
員が一致協力致しまして、
更に諸先輩のご指導のもと
に母校と同窓会発展のため
尽力する所存であります。
ご協力を切に願います。次
第であります。

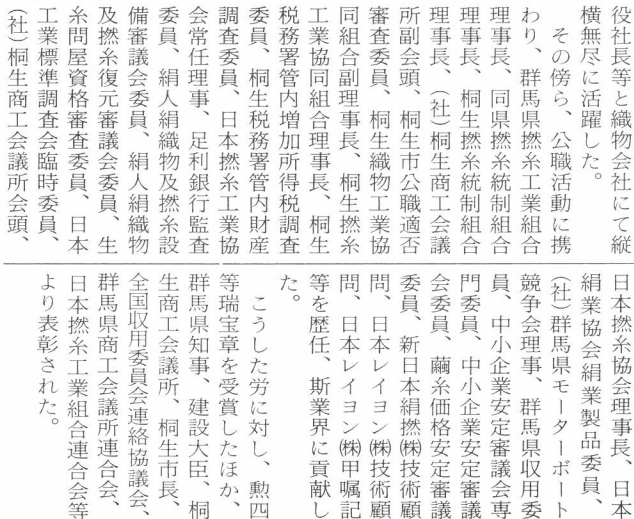


③ 会 工 同 窓 会 会 報 昭和55年 9 月21日(日)

明治四十一年染織科卒
海野幸世

役社長等と織物会社にて縦横無尽に活躍した。

その傍ら、公職活動に携わり、群馬県燃然工業組合理事長、同県燃然系統制組合理事長、桐生燃然系統制組合理事長、（社）桐生商工会議所会委員、日本燃然協会理事長、日本絹業協会絹業製品委員、（社）群馬県毛ターポット競争会理事長、群馬県取用委員、中小企業安定審議会専門委員、中小企業安定審議会委員、繭糸価格安定審議会委員、



會長 井上真市



び会工同窓会長を辞任されました。もとより過去数年にわたって再三辞意を表明せられていた口不揃、我々後輩の未熟さの故に留任をお願いしてきた訳ですが、高齢でもあり健康上の理由もあって、前總會におきまして退任を承認した次第であります。後任として、とあらず私ごとと是非力者が指名を受け、暫時お引受けしました。同窓生諸兄の協力をご期待するも

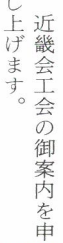
もあつて、前總會におきまして退任を承認した次第であります。後任として、とりあえず私ごととき非力者が指名を受け、暫時お引受けいたしました。同窓生諸兄の格別のご協力を期待するものであります。東京会工会は、逐年会員が増加し絶えず名簿の補充を行つてきましたが、近年その移動がはげしく、追跡も容易ではありません。また總會にいたしまして若年層の参加少なく、全卒業年次にわたる同窓生の関心をのこらぬことを苦慮しております。理由は幾つあると思いますが、一つは母校と同窓会にたいする考え方にズレが生じていること、二つに

は会の肥大化により、運営事務量が膨大となり若い卒業生の志向を捉えることが困難になってきたことによりと考えられます。今後はその辺に力点を置き、常に役員人事の思いきった若返りと魅力的な同窓会の構築などを考慮せざるを得ないであろうでしょう。妙案があればご教示いただきたいと存じます。

以上、東京会工会の近況についてお知らせしました。
※なお佐藤前会長は、名誉会長として、ご助力願っております。



会長 井上武美



近畿会工会の御案内を申し上げます。
西中国を含めて近畿一円をもつて近畿会工会を結成して居ります。連絡の取れる会員約八十名、年一回の総会出席者は約三十名と云つたところです。総会開催

の眞面寮等々が印象深い。最近では鐘坊の宝塚保養所がよく会場になっております。そのような形を成したのは日東紡伊丹の方々殊に初代会長故長沢興学さんの御尽力と名補佐役小日山さんの御協力の賜と感謝致して居ります。其の後会員各位の御協力を得ましたは順調に発展を続けて今日に至って居ります。長沢さんの後を染色業自営の沢口善市さん(昭三)次いで当時松下

営しておられる阿部正信さん(昭四一)には会の経済危機を幾度か助けて貰いました。尚東田繁正さんには只今は奈良におすまいです。今も尚柔道家らしい若林精二郎さん(昭一六)は事業家として意味盛。黒胴の少年剣士小島平八郎さん(昭一七)は三水ホルマリンの工場長として御活躍。当会のバックボーンは何と云っても昭和三年組の沢口元会長はじめ飯塚義雄、佐藤清八、大竹直一、猪狩千男(横浜)の各



会長 鈴木 登

八〇年代のめまぐるしい
移り变りの激動の中で、同
窓会員の皆さんはその後
益々それぞれの職場におい
て活躍のことに推察申し
上げ同慶にたえません。
さて今度会工同窓会が発
足されたことは、誠にご同
慶に存じます。

これを機会に相互の親睦

会の近況について報告させていただきます。概況としては、次の通りです。

一、毎年三月に役員・幹事会を開催し、六月の総会の議事の協議、その他。

一、毎年六月上旬総会を開催し、議事の報告と承認を受け、その後席上において親睦会に移る。

親睦をはかり、盛大に終了いたしました。

総会の出席も若年層の参加が極めて少なく、役員会において討議するも目新しい案もなく、同窓生の関心を把握することに苦慮しております。

今後は同窓会の皆さんと密接に情報を交換し、その

と同窓会活動の充実を計り、益々同窓会の発展を期したいと思います。

つきましては、東海会工

一、年一回會員名簿の發行
一、其の他
以上
今年（五十五年度）も六

点についてもご指導頂き、
母校の発展と会員相互の親
睦をはかりたいと思います。

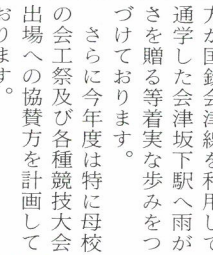
以上

幹事 星 武

坂下支部もお陰様にて一年目を迎える事が出来ました事は、これひとえに日頃皆様方より支部発展に寄せられましたご指導ご鞭撻の賜と深く感謝申し上げます。今日迄の主な事業としては、会員の80%以上の

会津会工会の坂下支部として方部同窓生の末長い親睦をはかりながら、母校発展に微力をつくす所存でございます。

今後共皆様方より尚一層のご指導・鞭撻を賜わります様、お願い申し上げます。



支那近況報告
会津会工会坂下支部
会長 二瓶隆男

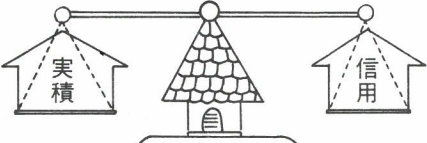
氏であり更に昭和四一
年組の阿部正信、武田良雄、
中堅義二、藤田良雄さん等
希望におうところ多大で
近畿会工会もここで大き
く転換脱皮が望まれている
ようです。新役員に選出さ
れた原田医院長、理博大窪
セメダ常務河村淳一さんや小
島邦八郎さんを始め若手諸
兄の発想と行動に多大の期
待を寄せている次第です。
以上近畿会工会の近況等
おしらせ致しました。

最後に母校と同窓会の発
展をお祈り致します。

星 榮祐
昭十八年
機械卒)
(株)ホシ表
作所取締

(昭二十年添工卒)
割烹上町万清取締役社長
幹事 星 武
(昭二十六年電気卒)
キタシバ技研(株)取締役社長

北芝電気株式会社
代表 松下貞夫
(昭二十六年電気卒)

特定建設業許可 (特-53) 第5019号 許可業種 土木・建築・舗装・上・下水道施設工事 一級建築士事務所 第7(104)1021号 JSA認定製材工場 第LU-15184号 秋山建設株式会社 取締役社長 秋山五郎 〒965 福島県会津若松市米代1丁目4の30 ☎ 会津若松局 (0242) 27-3770~3772	会津土建株式会社 取締役社長 菅家忠男 TEL 26-4500・27-1764 会津若松市追手町5-36	会津漆器製造卸ギフト用品販売卸 (有)会津クラフト 代表取締役 平山恒雄 会津若松市本町8番46号 電話(0242)27-8741(代)
あなたは何段? 最高位はどなた? 『酒豪コンクール』開催中!! くくっ 飲めば 飲む程 豪華賞品 れれっ 安くて うまくて 雰囲気満点 たたっ ノドに自慢は「カラオケ」でナジョダシ “水商売らしくない 会工の店ここにあり”酒亭道場 菊地 孜 (S16/3広化卒) (小座敷も御利用下さい) 会津若松市上町8-1 (スズメ肉店南角) TEL 25-0040	技術とアイデアの一矢建設 ユニークな住いとスマートな店舗造り 若さにあふれる一矢建設へどうぞ 株式会社 一矢建設 代表取締役 山田 尚 会津若松市日新町10-40 電話 26-0018(代)	格調高い伝統うるし工芸品 高級会津漆器製造卸 秋山漆器店 秋山幸一 工業化学科昭和26年度卒業 福島県会津若松市本町8番24号 電話 0242 (27) 3628番(代表)
(株) 田部組 田部 憲一 大沼郡会津高田町字高田甲2731 TEL 02425・4・3054	講演 今後の日本経済の動向について 日興証券株式会社 取締役営業部長 岩崎琢弥先生 会工同窓会総会 場所 会津若松市山鹿町1-9 期日 昭和五十五年九月二十日(日)午前10時 会費 三、五〇〇円 新卒者一、〇〇〇円	いつまでも心に残る楽しい旅を あなたの旅のプランナー ST 昭和ツリスト 本社…福島県会津若松市駅前(昭和ツリストビル4階) 電話 会津若松 0242(24)0211(代表) 郡山支店…郡山市清水台1の6の8(八幡プラザビル1号館3階) 電話 郡山 0249(22)6506(代表)
販売 鉄鋼、金物、工具、セメント、標識 建設機械 先産業株式会社 代表取締役 遠藤俊平 会津若松駅 TEL 25-0501~7 会津若松市町北町中沢 TEL 25-3341(代) (49号線バイパス) 喜多方・田島・只見・福島・郡山	土木建築請負業 株式会社 丸庄工務所 代表取締役 荒川英世 福島県大沼郡会津高田町字水戸乙2375 TEL (02425) 4-2011	伝統工芸品との ふれあいをもとめる 会津ぬり製造問屋 (有) 丹羽漆器店 取締役社長 丹羽 登 〒965 会津若松市大町四ノ町10 ☎ 0242-25-0354(代)
みみどり漆器店 取締役社長 皆川 登 会津若松市日新町8番7号 電話 26-5001番	電気工事のことなら なんでも相談 水六電気商会 取締役社長 水野 力 会津若松市山鹿町 電話 (0242) 26-3636	分譲地・注文住宅・建売住宅・土地買入  会津の地に600棟完成 ミサワ住宅株式会社 本社 会津若松市南千石町4-4 ☎(0242) 27-2089(代)
福島県会津若松市住吉町183 吉田セメント製品販売株式会社 代表取締役 吉田一栄 電話 27-4455	文具・事務用品・事務機・紙製品・画材用品 書籍と文具 吉田ストア 代表取締役 吉田栄治 会津若松市川原町1-9 電話 26-0123	躍進する 山平企業グループ (東山温泉 愛友ホテル) 丸善石油特約店 片平石油販売(株) 片平産業(株) 山平商事(株)スーパー山平 東山温泉 (株)愛友ホテル TEL (0242) 26-3344 代表取締役社長 片平忠正 本社 福島県会津若松市本町1番1号 ☎ 0242-27-3600(代)
福島県知事建設業許可 (般-52) 第5755号 東北電力指定店 設計施行 (高圧受電、一般電器、防災設備) 有限会社 和合電機 44年度電気科卒 水沼卓二 住所 会津若松市一箕町大字八幡字八幡33番地ノ2 電話(0242) 24-8332(代)	株式会社 若松タクシー 本社 会津若松市鶴ヶ城前 電話 代表(26) 6655 ご旅行のアドバイザー 新婚旅行から団体まで 若タク旅行センター 電話 代表(26) 7235	写真撮影・カメラの御用は (昭和16年12月卒) 山内写真館 会津若松市日新町12-28 電話 27-2042 番

祝 会工同窓会総会

会津若松市上町3番3号

会津ガス株式会社

取締役社長 相馬正夫
専務取締役 梅津正夫
会工同窓会一同

元福島県立会津工業高等学校長
社団法人全国工業学校長協会名誉会員
会津満鉄会会長

菊地 巖

(昭和4年染織科卒)

会津若松市門田町大字面川字中島63
TEL 0242 (27) 1801

全会津会工会顧問

新田 義一

(大正8年窯業科卒)

会津若松市米代1-1-56
TEL 0242 (27) 2590

総合建設業 一級建築士事務所
JAS製材認定工場

武木建設株式会社

代表取締役 武田 健

会津若松市町北町大字始字深町10番地
電話 25-2121 (代表)・22-5088

一般建築設計施工

伊東建設工業株式会社

代表取締役 伊 東 正

福島県会津若松市門田町大字年貢町字大道西636番地
電話 27-8058番

給油・洗車・6ヵ月点検・民間車検・自動車保険

ゼネラル 株式会社 会津ゼネラル

本社 会津若松市門田町年貢町大道西5 TEL 27-2400

今日の幸わせも繁栄もみなご先祖のおかげ

仏壇・仏具・神棚の専門店

豊かな心を創る

仏壇の
保志



会津若松市日新町3-8 TEL 26-6121

躍進を続ける
保志グループ
樹保 志
会津木工産業㈱
樹保志館センター
ホシドブラジル
ホシセン商事㈱
保志販売㈱

翔 き

— 新しい時代を造る 確かな槌音 —

株式会社 東條建設工業

代表取締役 東 條 秀 夫

会津若松市蚕養町9-13 TEL 25-3661(代)

福島県会津若松市大町石堂325番地

武田土建工業株式会社

取締役社長 武 田 信 孝

TEL 24-1018



割烹

萬花楼

会津若松市
電話(22)4567(代)

フランスベッド
クリナップ流し台
蔵王印家具

(株)松坂屋家具店

取締役社長 村 松 賢一郎

会津若松市御旗町 電話27-6629
会津若松市七日町 電話27-3630

磐梯山のお酒

會津 ほまれ

ほまれ酒造株式会社

福島県会津喜多方市松山町
電話 02412-2-5151

創業90余年の伝統と
印刷の魂力を創るよう
に直視するスタッフの
心根に確たる信頼をよ
せながら、その道程の
彼方に途方もない夢を
描き続けております。



会津若松市馬場1-41
Phone 0242-22-4121

誠意と技術で奉仕する
若松ガスグループ

若松ガス株式会社
若松ガス化学工業株式会社
若松ガス燃料機器株式会社
若松ガス不動産株式会社

代表取締役社長 高 木 厚 保

会津若松市千石町4番16号 ☎0242 28 1311(代)

静かな庭(三宅邸)に囲まれた

米 熊 旅 館

伊 藤 昭 三

福島県会津若松市栄町7-49
☎ 0242-22-0399(代表)

アスファルト舗装工事
農 業 土 木
建 築 工 事
上 下 水 道 工 事
一 般 土 木 工 事

新国建設株式会社

代表取締役 新 国 誠

〒965 会津若松市西七日町3番21号
電話 (0242) (代)23-1678

会 工 同 窓 会

会長 吉 田 一 栄

各地区会工会長

全 会 津 会 工 会

会 長 吉 田 一 栄

副会長 梁 取 秀 和

副会長 片 平 忠 正

副会長 山 添 茂

〃 唐 橋 国 八

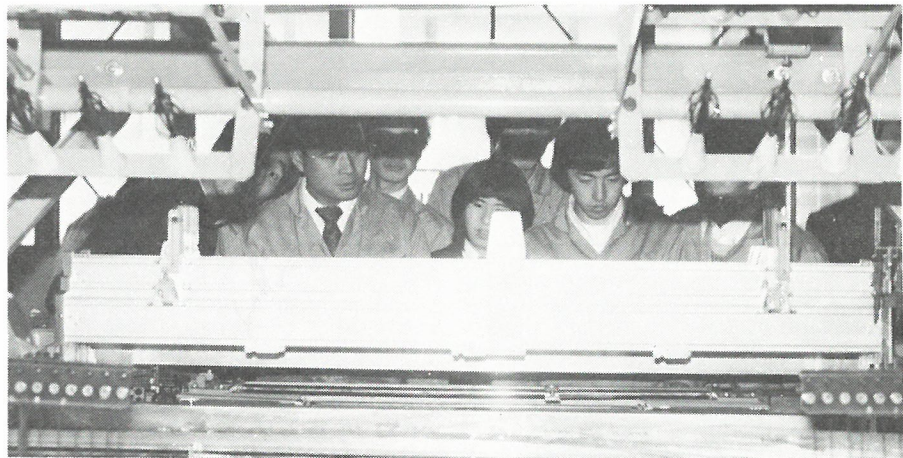
〃 二 瓶 隆 男

各 科 だ よ り

繊維工業科

開校以来の伝統を誇る繊維工業科(旧染織科)多くの卒業生が日本中の各分野で、更に世界の産業界の指導者として活躍しておられる様子を見聞し、今更年々諸先輩の偉大さと、後に続くべき若人の育成に当る者の責任の重大さに心を引締めている次第です。

近年入学して来る生徒の考え方や基礎学力の点では他の工業高校の例に漏れず多様化し、学習指導および生活指導の面で十年前とは異った気の使い方を必要としています。全日本繊維工業教育研究会や校内会議においても「繊維工業教育の発展をめざして」という大テーマのもと、各種指導は「いかにあるべきか」について検討実践しています。



繊維工業科、製織学習風景



そして教育内容についても専門を徒らに深めず、繊維技術者としての基礎に止め、実験実習による体験学習に重点を置く方向に進んでおります。

また就職問題についても核家族というか、子供の人数が少ないということから来る地元就職希望の増加、専門分野に就職希望者の減少に対する指導のあり方にも頭を痛めている現状で、環境を整備し、花壇を作り池には錦鯉・金魚などが泳いでいる中で学習が進められています。

工 芸 科



今年完成なった！ 工芸科標本室

明治三十七年徒弟学校が昇格して地場産業の中堅技術者の育成を目標に漆工科が設置されましたことは、全国的に珍らしい形態であります。その後教育課程の改善は勿論、産業教育振興法により新しい設備も充実されつつ現在工芸科として私達の豊かな生活を営むための室内環境の計画、設計・装飾、生活にうるおいを与え楽しく使える工芸品の創作活動に意欲をもって学習しております。五十七年度から新しい教育課程が実施されますが、科の伝統が消えることなく今後ますます木材工芸・塗装工芸の占める分野はその重要さを増してきており、他に類のない学校の特性が充分発揮されるよう先生方と検討を重ねております。なお本科は全国的に数少ない希少価値もあつて逐年入学希望者も増加し、就職率も一〇〇%と高率を占し、産業界で多大の貢献をしております。さて本科には徒弟学校時代(明治三十年頃)から参考品として全国各地のすぐれた漆器があり現在まで校内に散在してありましたが、去る七月標本室が完成し一堂に展示できましたことは、生徒の学習は勿論のこと、散逸を防ぎ、貴重な品々を永く保存するためにまことによろこばしい次第です。なおこの標本室が計画されましたことについて一言申し上げておきます。去る五十四年四月十四日当時第二学年大竹隆君が登校途中不慮の交通事故により亡くなりました。まことにいたましく残念なことです。ご両親がそのような事故が二度とないようにとの念願をこめ多額の金子をご寄附いただきました。そのご厚意をもとに標本室が立派にできました次第です。ここにこの両親に対し衷心より感謝を申し上げますとともに大竹君のご冥福をお祈りいたします。

窯 業 科

本科は諸先輩の礎いた古くからの伝統の上に立って人づくりをモットーとして努力をしております。

学習内容は卒業生の進路に伴ってガラス、セメント、陶磁器、耐火物その他窯業全般について盛り込まれ、その根幹をなす窯業実習も陶磁器のみでなく窯業の領域に属する各工業の基礎的技術が修得できるよう配慮して実施しています。

また生徒の多様化に伴い五十七年度から実施される

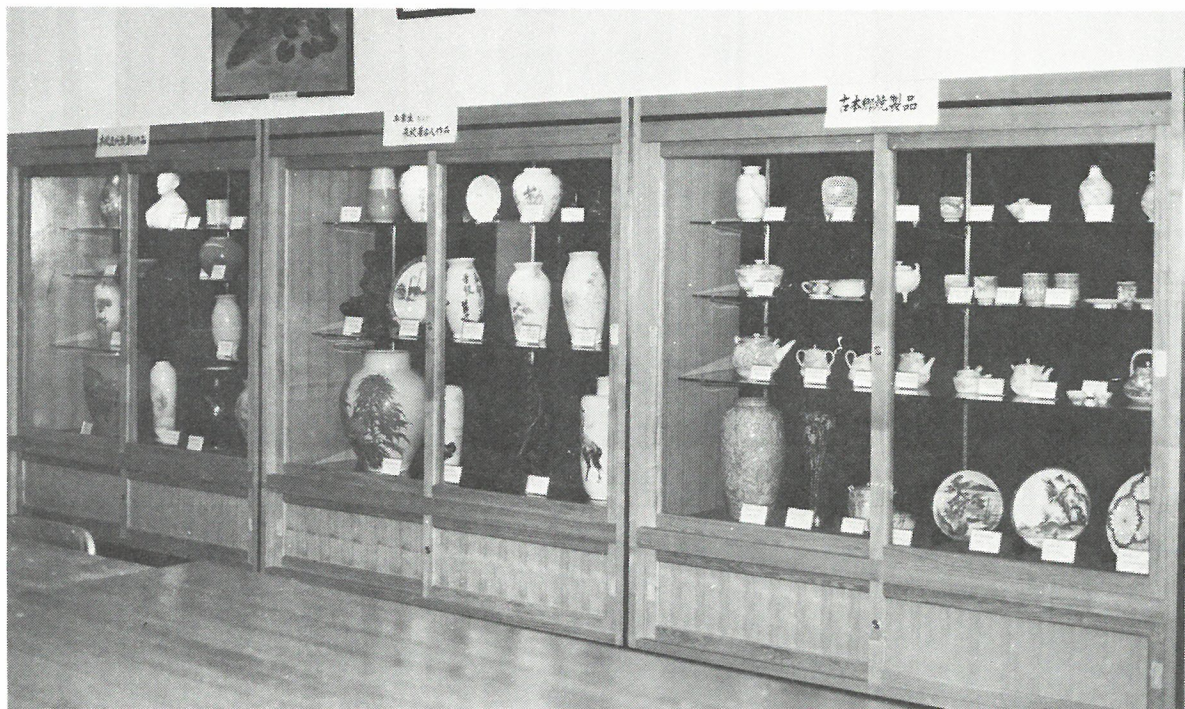
新教育課程への移行にはこれらの生徒にマッチした教育が効果的になされるように本科職員が一丸となり研究をしています。

文部省から示された改定指導要領では現在まであった十三学科が整理統合され十三学科として告示されたが本科は全国的に見ても置校が最も少ないにもかかわらず独立した学科として残されたことについてもその重要性がうかがわれます。私共もこの期待に答えるべく窯業発展のために精進している次第です。

また卒業生に対する求人

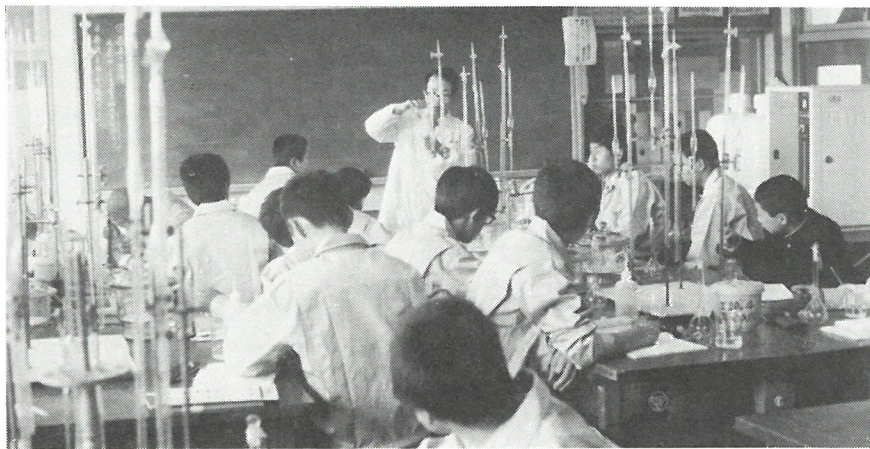
も先輩諸兄のご活躍のお蔭でガラス、耐火物、セメント、陶磁器などの各業界から殺到し、本科の希少価値も手伝つて生徒が選択に困る程、驚くべき数に達しております。しかし現在では地元指向性が強いため、地元企業への就職開拓にも努力しています。

これからの窯業界の情勢を分析し、ガラス実習室の新設やX線回折装置など、新しい設備の導入を促進し、卒業生が現代窯業界の技術に対応できる生徒を養成すべく施設・設備の拡充にも努めています。



窯業科、陶磁器資料陳列室

化学工学科



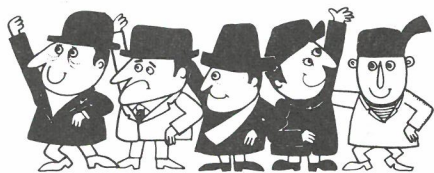
化学工学科実習風景

六学級、二百四十名が化学工芸科の世帯である。施設・設備はほぼ完備、専門教科四十二単位の内容は充実しており、特に実習二十一単位はその中心となっている。

生徒の質の多様化にともない、五十七年度より教育課程改正のため、工業基礎工業数理の導入に職員一同真げんに取り組んでいる。

県外化学関連大企業からの求人は史上最高であり、長男が多く、地元志向が多くなったこのころでは、地元企業の受入能力に限界があるため、その打開策に一層の努力が払われている。

今年度、化学工学科の一層の充実をはかるため、校内敷地に二百六十九平方メートルの吹ぬけ粉石けん製造プラントが認可され、建設に着手した。施設・設備で合計

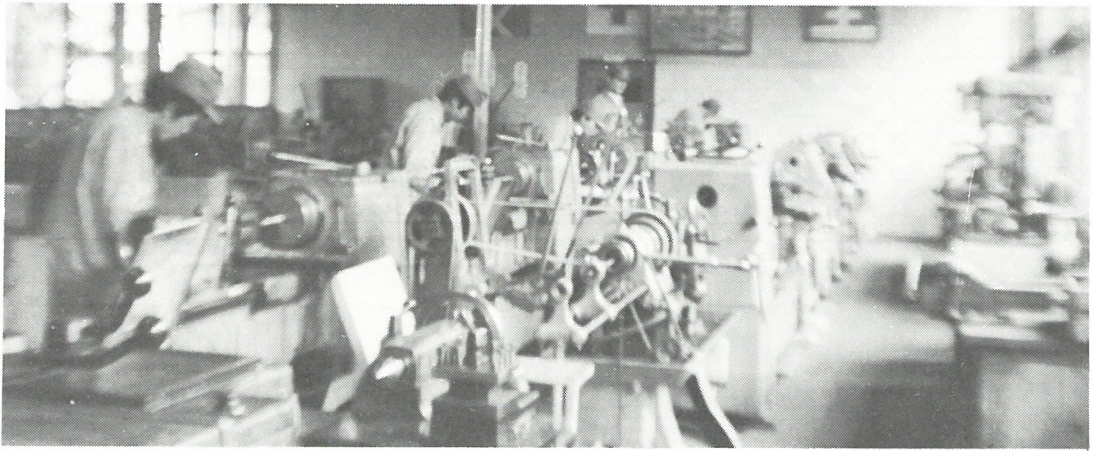


機 械 科

最近のM科職員は喜工との往復移動が激しくなり、古い卒業生諸君が切角来校されても、顔見知りの先生が居なくなり、喜工に行けば会えるからなど云う場合もあり、喜工においても同じ現象である。

もうしばらくすれば、又昔の顔触れ揃うかも知れない。

一昔急増対策の一助にと産業科溶接課程、車輛整備課程、これに併行して精密機械科と相次いで新設されたが現在は精密機械科を吸収してM科二クラスとして存続している。そのためM



機 械 科 実 習 風 景

電 子 科

昭和三十六年に電子工業科として出来てから、二十年にならんとしています。

第一回の生徒が入学した頃は、校舎増改築が始まった時だった。木造校舎から鉄筋校舎へと建て替えるのが教室や実習室はあちこちと移動して、引越しの連続でした。何となく落ち着かない時期でした。実習機器も購入が間に合わずに、電気科の借用したけれど、電子科も最初は電友会組

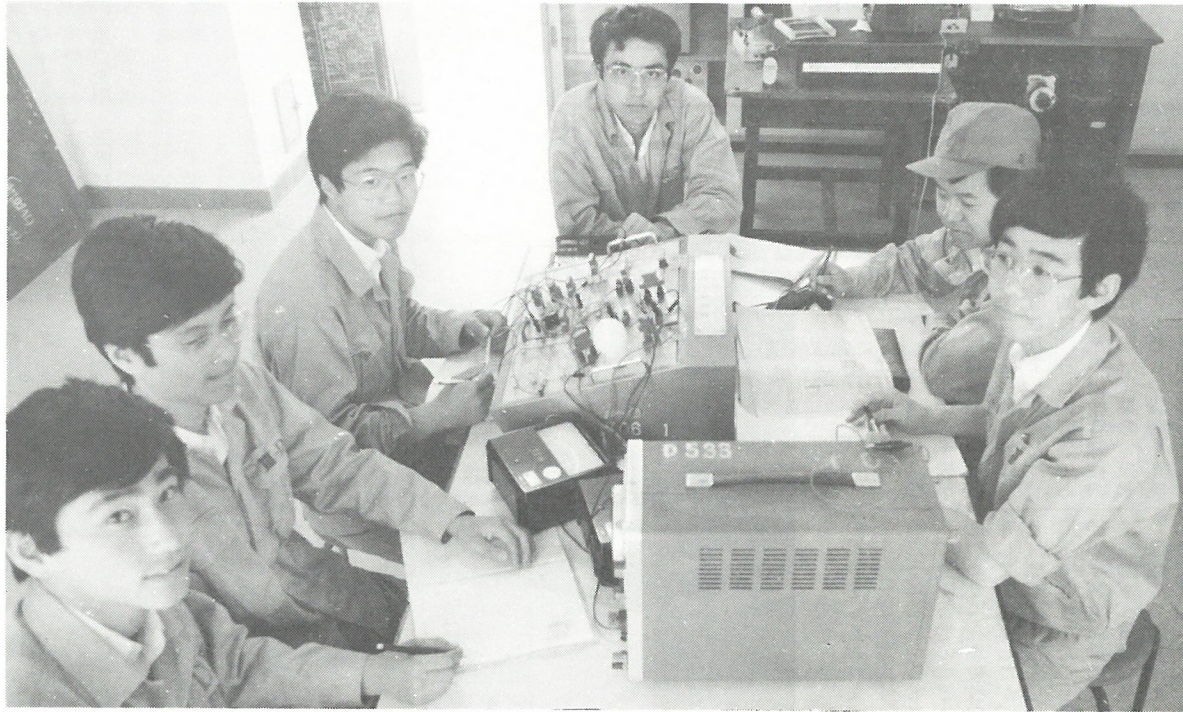
織の中に入れてもらったが、三学年がまとまると、分離独立して、活動するようになった。今でも新入生歓迎会やソフトボール大会などを催しております。

三十九年春に最初の卒業生を送り出し、四十三年の春には初めて一名の女生徒が入学しました。まさに紅一点です。その後一名、二名と入学し、九名の女生徒が卒業し、現在一年に一名だけ在籍しております。

四十八年には、待望の小型ではあります、コンビュータが導入され、情報教育に強みを発揮しています。



施設・設備も充分とはいえないが、充足されつつあり、電気科と共用しつつ、社会人への基礎固めに身を入れている所です。

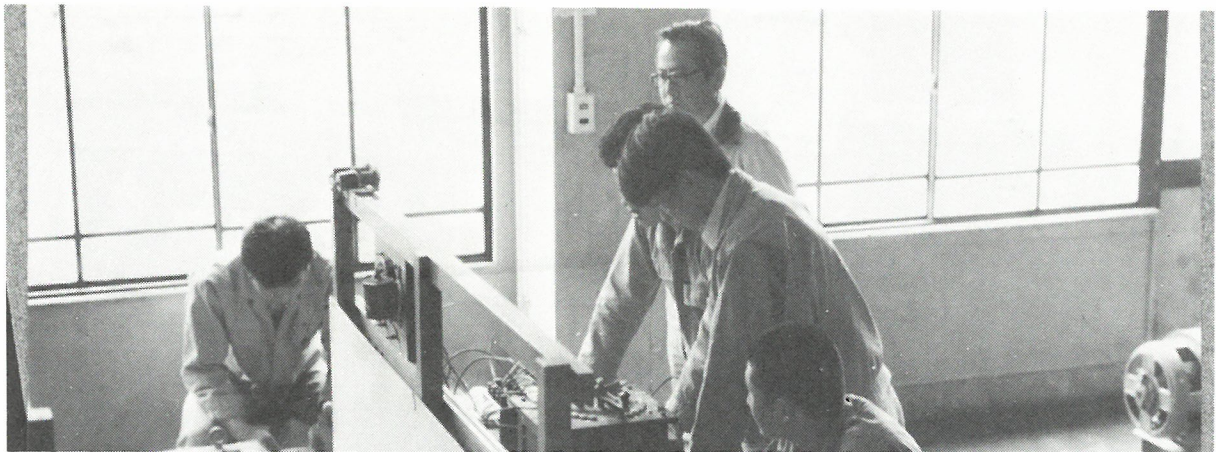


電 子 科 実 習 風 景

電 気 科

6月に電気工事士の学科補習を実施し6月22日に行われた同筆記試験では52名受験し31名が合格した。電子科では39名受験24名合格全体で合格率60%の好成績であった。7月下旬から8月上旬にかけては同技能補習を実施し、8月10日の同技能試験を受験した。試験も年々きびしくなるようでも相当勉強しないと合格は困難になっている。

また7月には工場見学を



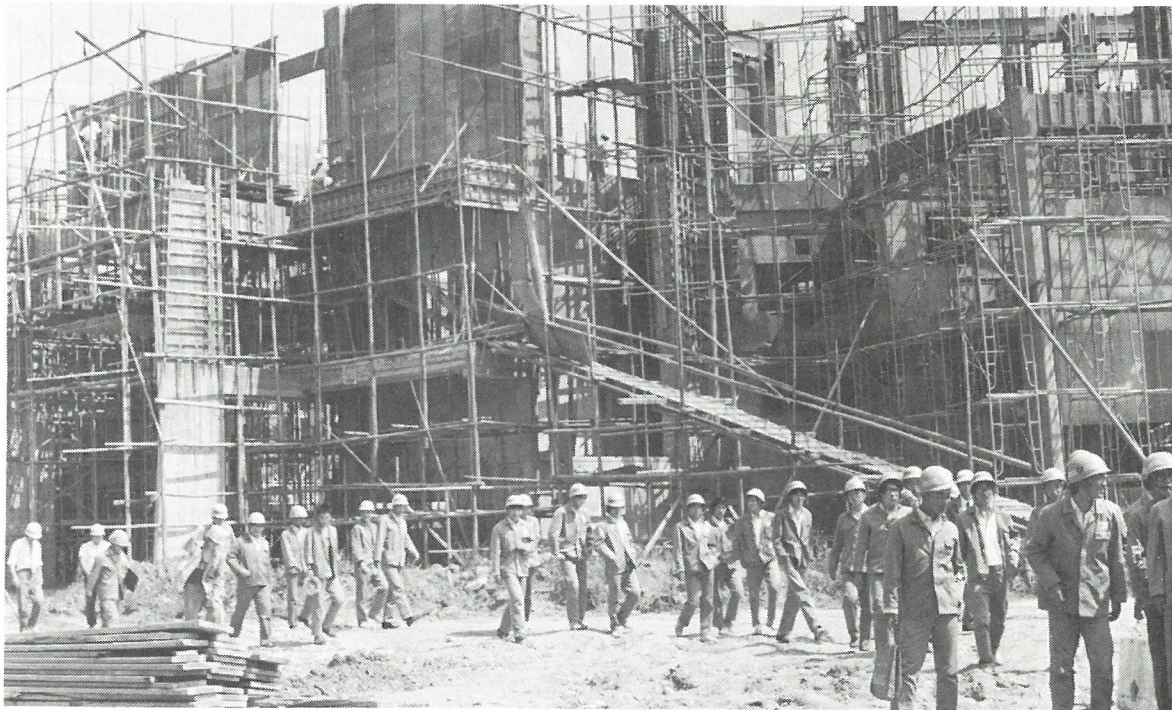
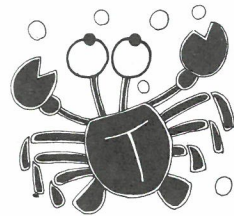
電 気 科 実 習 風 景

建 築 科

在学中に各科それぞれに修養会があり卒業時まで集団活動を行うが、卒業後は自然散会となってしまう。ところが本校建築科の修養会である「建友会」は卒業後も毎年一回の総会を開いて互いに親睦を深めあうという大変異色な建築科卒業生だけの同窓会である。

この会を簡単に紹介すれば建築科卒業後会津に居住するものであれば自動的に会員となる親睦会であるが、修も兼ねる。年一回の総会は参加形式で年会費として特別に徴収はしない。年々会員は増加する一方であるのに総会時の参加会員数が毎年コンスタントであるところが不思議と面白い。昨年は三十周年記念ということで母校に十五万円相当の記念品の贈呈があった。大変恐縮なことだが他科にはない建築科独特の団結の然らしめることお互いに自負している次第である。

一方に会工同窓会の総会があり、他方建友会総会がある。この建築科卒業生の会工同窓会への出席率の悪いことは、役員の方々からお叱りを受けるところで申開きがないが、代表者に諮るべき問題であろう。この建友会にも問題点がない訳ではない。いろいろ意見のあることも事実で今後の改善に俟つこととしたい。



建 築 科、建 築 現 場 見 学

各クラブのプロファイル

体育班

陸上競技部

現在十九名と、寂しい人数ではありますが、部員一同それぞれのブロックを中心に頑張っております。昨年(五十四年度)の人事異動により、多くの業跡と立派な伝説をききあげた山田先生が大沼高校に転出しました。……先生の熱意とご苦労に対し感謝申し上げ、佐々木先生と二人でその後任を引き受けたいました。

本年、日本電気に入社しました星君は、昨年の全国インターハイで一五〇〇障害第五位に入賞しました。先輩・星君に続けと部員一同、おしなない努力を続けております。

体操部

体操部は、ここ三年前より年々成績が向上してきた。これは部員が一丸となり、チーム力向上に日夜努力してきた成果が実をむすんだといえよう。今年は器械、新体操が、県高校体育大会で共に団体総合優勝をし、個人総合でも優勝、また種目別でも全種目に優勝を挙げた。これは会工体操部創立以来初めてのことであり、丁度この大会は、高体連三十周年記念大会であり大変意義のある優勝といえる。さらに東北総体では、新体操団体で総合二位となり、国民体育大会に県代表チームとして出場。

今後はこれにおごることなく今日までの成績を維持し、体操部の伝統を更に築いていくことになろう。さうにご声援下さいますようお願いいたします。

スキー部

我がスキー部は、一年生六名、二年生八名、三年生十一名の計二十五名で部活動を行っています。四月から十一月までは、オフシーズンです。主に陸上トレーニングで、筋力、持久力の強化を目的としています。スキーとは、冬の短期間に、競技が集中され、一ヶ月間に全大会が組まれています。そのため、精神の集中力が成績を左右するので、百分の一秒を争うアルペン競技、雪上のマラソンといわれ、地味で孤独なデンスタンス、より遠く、より美しく飛び、ジャンプ。我が部は、今のオフシーズンに黙々と、汗を流している。

水泳部

今年度の活動をふり返えて成績と今後の抱負。

柔道部

我が会工柔道部は今年会津の雄と、さらに福島県柔道界の王者なることを念願し、我々顧問はじめ部員

弓道部

現在、部員は三年生八名、二年生十二名、一年生十五名、計三十五名で部活動に励んでおります。今年度の成績は全会津春季大会総合優勝、県春季大会三位、高体連地区大会一位と幸先よいスタートをし、全国大会を目指して猛練習をつんできました。高体連県大会では団体入賞を逃しましたが、個人戦では二位となり四年連続の全大会出場を果しました。後半の会津総体では総合優勝したものの県総体では完敗し、残る新人戦に全力をあげるべく、二年を中心に頑張っております。今後共、諸先輩の応援、ご指導をお願い致します。

剣道部

「不動心」……この言葉は今年四月卒業の先輩から寄贈していただいた和田晋先生直筆の書である。昨年末新築していただいた道場に花をそえています。

格技というものは、ただ単に技術だけの練習で勝利をえることは極めて難しい。それにプラスされるものは何か、それは精神力である。どんな相手にも恐れず、迷わず、立ち向かっていく精神力があれば、ど



新築なった格技場に剣道部勢ぞろい

卓球部

昨年の総体で、地区の代表もとれないチームであったが、真剣に努力し半年後の県新人戦でベスト8、個人で2K高橋2A菅家1C米山のランクを出すところまでになった。県インターハイでは団体優勝をねらい、他地区の強豪との合同練習も組みこみ、他部に負けぬ努力を積み重ね大会に望んだが、優勝した県福工に敗れベスト8にとどまってしまう。総体地区個人で二年の米山が優勝し、県ではあと一歩のところまで団体出場をのしたが、ここを中

野球部

会津工野球部には古い伝統があり、この伝統に支えられ毎年活躍しています。近年の安定した活躍は、夏に頑張る会津工の名を県下に知らしめ一昨年、昨年ともベスト8に今年も福島大会優勝の双葉高と全国にもあまり例のない延長18回の激戦を展開0対1で惜敗。ベスト16にとどまりました。

空手道部

本校空手道部は、他の部に比べると歴史が浅く同好会時代を含めて一〇年未

軟式テニス部

我々軟式テニス部は新人戦を好成績のうちに占めることができた。会津地区予戦では、個人戦ベスト4独占、団体戦優勝、そして県大会では、八工大第一や小田田農林に及ばず3位で全国ジュニア選抜大会に出場となった。

インドア個人戦の会津地区予選では一位と三位だったが、県予選では地区で三位だった池内・大谷組が善戦し三位入賞となった。



昭和55年度福島県インターハイ優勝(10回目) バドミントン部

バドミントン部

二年振り通算十度目の県インターハイ優勝。苦しいたたかいの末だったこともあって感激も例年以上だったし、昨年の無念を晴らして先輩に恩返しできました。

バスケット部

インターハイ県予選の個人戦では、2つとも、インターハイと東北大会を目前にベスト16、団体戦はベスト8という結果だった。

サッカー部

毎年の事であるが、会津では最強であるが、県大会では今一つである。今年も大体その傾向であった。一般に会工生はおとなしすぎるようである。特にサッカーに於ては、気迫が気力がない。全くその点ではだらない。従ってこそぞという時に、気力の勝負になつてきた時にはもうだめであ

山岳部

創立以来、会津の山々を中心に歩き続けて来ました。OB会の山小屋を利用した三月の春山トレーニング山行や四月の新人歓迎登山、五月の安達太良山、六月県インターハイ(那須連峯)七月は山形の朝日連峯で合宿をして来ました。天候には恵まれませんでした。悪条件の中でのいろいろ勉強になりました。風とガスの中であふれていたシナノキ

バレー部

昨年の新人戦以来、勝運が見られ、今一步の頑張りがきかず、ずるずると低迷が続いてしまいました。日頃の練習を通して力を付けてきたと思っていま

学芸班

美術部

●絵画

会工高の美術部は、油絵と水彩を主体として活動を展開しています。

部員も絵画だけで25名もあり、狭い部屋を益々狭くする程の熱気ある良い雰囲気をももたしています。

また独自の第五回会工高美展(9月14日、20日)於大町中央画廊)を開催するなど、各種展覧会では良い成績を納めています。今回も会津展の受賞をはじめ、県展・全国展に県代表として3Lの海老ヶ瀬桂君が選抜され、去る8月初旬、金沢で展示会がありました。部員は、未来の可能性を信じ努力精進し伝統を守りつづけ立派に活躍しています。

●書道

本年度の書道部は、四月の入部者が一人であった。現在は週二回、火曜と木曜に一時間半程度、楷・行・草・隸書を半紙学習している。

この十一月に「会工祭」を控え、条幅作品を何とか書きあげたといふ小人数ながら基礎練習、特に古典の学習に力を入れてやっています。本校の書道部の長い伝統をこの小人数と新前顧問とで得ていかどうかは疑問だが、何とか少しでもよい作品を書きあげたいというのが吾々三人の希望である。

英会話部

学校教育における英語教育は、とくに、講読・英作文などにおいては充実の途を進みつつあるが、音声表現においては、まだ努力の余地が大きいとされている。

無線部

私たちが無線部は、電気科製図室内の小屋を根拠に毎日活動しています。部費納入者総勢47名2年生を中心に、強力なメンバーが集ります。去年度はアンテナの整備に力を入れ、各周波数帯のアンテナ群が屋上に立ち並びこれだけ県下一ではないかと自慢できます。

社会部

社会部の歴史は古く、今年度の部員は四十三名だが、実際に活動しているものはあまり多くはない。部室を持てるようになったのは近年のこと、長い間自分の家のない苦しみを経験した。その間も活動は続け、毎年研究テーマを定めてその成果を発表してきた。近年のテーマは、公害・自衛隊・日本の農業、石器・土器の歩みなど、政経的なもの、地歴的なものと範囲は広い。今年度は文化祭を目標に、会津の歴史をテーマに研究を続けている。会津の歴史が注目されている時、どんな成果があるか期待される。

計算技術部

まず最初に、部の名前が計算尺部から計算技術部に変わったこと。それは、電卓の普及により計算尺競技大会県予選がなくなったことや、電卓も取り入れる目的がなくなった理由です。部員構成は、三年生七名、二年生三名、一年生四名の合計十四名です。

写真部

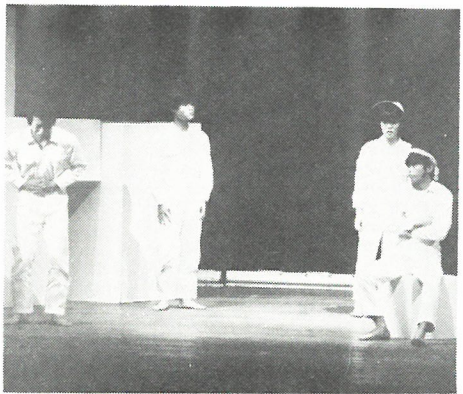
活動内容は、計算尺の方はまだ全国大会があるのでその練習と、検定試験では三年生は一・二級、二年生は二級、一年生は三級を目標に頑張っており、昨年、活動した電卓の方は検定試験を主体にした練習を重ねており、この機会に一大発展を目指している。機械科の嗜好により、暫時的ではあるが一室を借り、部員全員でその材料費を個人負担し、部専用の手造りの暗室を設け、初めて引伸機を購入し、逐年その内容充実を計ってゆく計画である。

演劇部

本校に限らず、文芸関係の部活動は、なかなか活発にならない。しかし本校の部員はよく努力し、過去三年間の間に、五二年・五四年の二回、会津地区で「優秀校」に選ばれ、県大会に出場している。県大会に出場して、びっくりするとは、ほとんどが女子高校生。



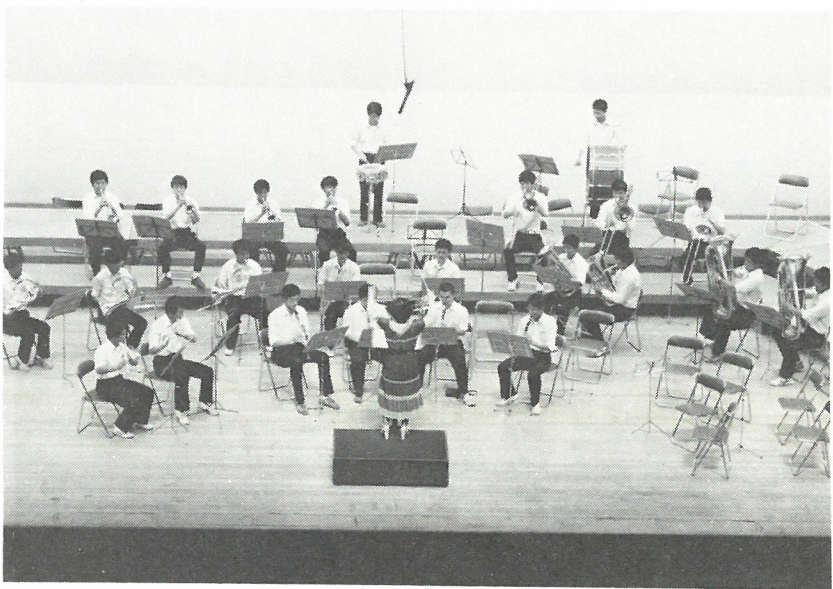
張りきる無線部員「こちら JA 7 YcB……」



演劇部県大会で熱演のひとコマ

自然化学部

我々、自然化学部二十数名は、日々天文と気象などの自然現象を観察しています。日常的活動として星の観測と観察、写真撮影などや、天気図作成などがあります。今年度は、会工祭についての準備を、前回のことなど



昭和55年度福島県高等学校音楽祭

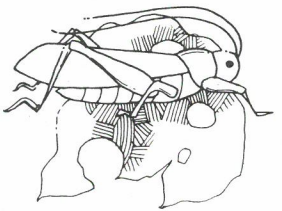
会工祭について

教務課主任 赤城良一

三年に一度の会工祭、今年はその会工祭の開催年に当ります。いま学校では十一月二日、三日の公開を指して着々と準備を進めております。メインテーマは建築科三年の松葉和実君の「みなぎる力、輝く技術」がきまり、ポスターはデザイン科二年の佐藤由紀さんの作品の採用がきまりました。各科の実習公開の準備も、いろいろの趣向をこらして進められています。会工祭という、以前は会津地方の名物の行事だったように思います。十一月三日を中心に三日間の会期で開催され、全期間を通じて二万人を越す入場者がある、窯業科、工芸科、繊維科の作品即売場などは黒山の人のだかりになったもので、今ではもう神話のようになっています。昭和二十五年の会工祭では当時まだ放送の始つていなかったテレビジョンが、入場料をとって公開されたことがあり、強烈なライトに照らされたながら演奏している楽団を撮影し、隣の教室の受像機に映すというものでしたが、押すな押すな盛況でした。昭和二十年代から三十年代のはじめ頃は、現在に比べるとまだ社会も豊かではなく、学校の実験設備も充分なものではありませんでした。それだけに展示にいろいろな工夫をこらし、一週間前になると生徒は家からふとんを運び、泊り込みで準備に励んだものです。電気科では市内の電気商に依頼してテレビやトースターなどの電気製品を展示してもらいました。機械科ではオートバイの展示をしたり、化学工学科では近代化学工業の製品が並べられ、入場者は発展する日本の工業界の姿を目を見張ったものでした。

編集後期

「秋来ぬと目にはさやかに見えねども、風の音にぞおどろかれぬる」の古歌ではありますが、今年の夏は、全国的に七月初旬より秋の気配に驚かれました。例年の会津盆地特有の炎暑は何処へやら、冷たい夏のままだに移行するという天変の候であります。日本各地の同窓諸兄におかれましては、お変わり無くお過ごしのことかと慶びしく存じます。



この誌で取り上げましたように、校舎設備の近代化、学習内容の現代的発展、現在の各科の様子、各クラブの活躍の状況等、母校は創立以来八十年の星霜に幾多の変遷を経た現在であります。さらに今年は、三年に一度開催されます「会工祭」の年であり、諸兄もかつて学園祭におかれましては、青春のページを心に刻まれた事ではないでしょうか。その節には、ご案内申し上げますので、是非皆様ご来校いただき、旧懐を温める機会とされますよう、さらに後輩に良きアドバイス等を頂戴できれば幸いと存じます。また会報を編集するに当たりまして、各地区同窓会始め、母校各先生方にご協力を賜りましたことをここに深く感謝すると共に、母校の増々の発展と、同窓会並びに諸兄の繁栄を祈念して後記いたします。

会工祭ポスター……「みなぎる力、輝く技術」の今回回会工祭テーマのもとに、応募総数100余点のうち秀作21点



前回は昭和52年の会工祭「大アーチ」

